

平成26年度 門川町立門川小学校 学校関係者評価書

学校の教育目標「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 子どもの育成」

平成26年度の重点目標【 1 基礎学力・基本的な学習習慣の定着 2 基本的な生活習慣の定着 3 学校・家庭・地域が連携した教育の推進 】

【 4段階評価： 4～期待以上 3～ほぼ期待通り 2～やや期待を下回る 1～改善を要する 】

重点目標	目標達成のための手段（評価指標）	学校の自己評価（分析・考察・改善策等）	自己評価	関係者評定（平均値）	学校関係者評価【意見・感想・改善策等】
1 基礎学力・基本的な学習習慣の定着	(1) 「しっかり教える じっくり考えさせる」授業の実践 ----- (2) 授業における言語活動の充実（書く・説明する・話し合う活動） ----- (3) 児童の学習の定着状況の見届けと補充指導の充実 ----- (4) 授業における学習習慣の徹底 ----- (5) 家庭学習の習慣化と内容の充実	○授業改善については、職員研修の効果もあり、職員に浸透してきている。 ○学習内容の未定着児童への補充指導については、パワーアップタイムの増設、少人数指導の充実等により、一定の成果が得られてきている。しかし、まだまだ不十分と捉えている教師も多いことから、内容のより一層の充実を図っていく必要がある。 △授業における学習習慣及び家庭学習の内容実の指導については、学年学級等により、やや温度差があるため、再度、実践事項を確認するとともに、指導の徹底を図る必要がある。 《参考データ》 ＊C R Tにおける正答率の状況 全校平均：国語[H25]67.9%→[H26]66.8% 算数[H25]69.6%→[H26]70.4% ＊C R Tにおける3段階評定1の割合 全校平均：国語[H25]10.3%→[H26]10.2% 算数[H25]17.0%→[H26]15.2% ＊授業での学習習慣の定着の状況(教師)：82% ＊宅習の改善の状況(教師)：86%	2	2.8	○ 読み聞かせや補充指導が定着してきており、基礎学力は少しずつ伸びてきている。 △ 学習習慣の定着について、さらに力を入れて取り組む必要がある。 □ 学校の教育指針を保護者が一人一人の子どもとともに、しっかりと受け止めて、それに協力してくれるとよい。 □ 3年生以上においては、35人学級になるようしてもらいたい。
2 基本的な生活習慣の定着	(6) 基本的な生活習慣の定着（あいさつ・廊下歩行・整理整とん） ----- (7) 教育指導の基盤となる学級経営の充実	○教師による常時指導のほか、委員会活動による取組、児童リーダーによる取組が定着し、一定の成果を上げてきている。 △学校外でのあいさつなど、より一層地域や家庭と連携を図っていく必要がある。 《参考データ》 ＊良くなっていると感じている割合(教師) ・あいさつ:69% ・廊下歩行:69% ・整とん:靴箱92%・トイレのスリッパ77%	2	2.8	○ 児童リーダーによるあいさつ運動の展開は、とてもよい。 ○ 子どもたちは、地区でもよくあいさつをしてくれている。 □ 基本的な生活習慣については、まず家庭のことになるが、鉛筆の持ち方や箸の持ち方など、気になる。早いうちに身に付けさせる必要性を感じる。
3 学校・家庭・地域が連携した教育の推進	(8) 積極的な情報発信と協力要請 ----- (9) 幼稚園・保育園、スポーツ少年団との情報交換と連携	○幼稚園・保育園との連携については、昨年度より内容の充実を図ることができた。 ○学校便りや各種会合への参加、スポーツ少年団への応援等を通して、相互理解は図られてきていると感じる。今後は、連携した取組を行っていくようにする。 ※次年度は、P T Aにおいて、学力向上を図るための共通実践事項(家庭学習・メディアコントロール・家読・地域行事)を設定し、学校と家庭が連携 を図りながら取り組んでいく予定である。	3	3	△ 学校と地区育成会、地区役員との交流が必要である。 □ 家庭でしておくこと、保育園・幼稚園段階でしておくこと、要するにそれぞれの基本的な役割を実行する事が大切である。 □ 地域と家庭は、親の学習次第である。 □ 学校とスポーツ少年団との連携については、今後を見守りたい。
総 評	○ 次年度はP T Aにおいて、学力向上を図るための共通実践事項を設定し、学校と家庭が連携を図りながら取り組んでいくことは、大変良いと思う。頑張って欲しい。				